

Ⅱ 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅱ-15

がんばった、がんばっている姿を大切にしよう！

対象：4～6歳児をもつ保護者

時間：55～65分程度

ねらい	○ 「子どものがんばっている姿」を振り返ることで、それらが非認知能力に結びついていることに気づき、これからの子どもへの関わりを考える。		
実施のポイント (評価など)	○ 「自身のがんばっていること」を考えるワークを通して、非認知能力について身近に感じることができるようになる。 ○ 自分の経験から「がんばる」という言葉に特定のイメージを持ち、子どものがんばる姿が一つの力に偏る保護者には、書き込む時間やグループでの発表時に声をかけて視野が広がるようにする。 ○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） ○ 資料 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (簡単な交流・自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、流れ等について説明する。 3つの約束を守るように周知する。 参加者の緊張をほぐす。 	名札 3つの約束
展開 20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 自分自身が、がんばったと思える出来事(経験)を思い出し、それはなぜがんばることができたのかを書き込む。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎自分のがんばった経験から「非認知能力」についての興味や関心を引き出し、「なぜがんばることができたのか」を考えることで、どのように「非認知能力」を自分自身が育ててきたのかを知ることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 出来事が1つの「力」に偏る保護者には、視野を広げるために3つの力それぞれの事例を出したり、「他になぜがんばれたのか」と質問をしたりして、参加者の視野が広がるようにする。 自分がなぜがんばれたのかを共有することで、「がんばることが」できる(「非認知能力」を育む)には様々な理由があることを気づけるようにする。 	ワークシート
5分～10分	資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> 非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。 	◎「非認知能力」を伸ばしていくためには、プロセスを重視することの大切さを伝え、大人の関わり方の大切さにも気づくよう促す。ふれあい遊びを楽しみながら、親子の信頼関係がはぐくまれることを伝えることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> がんばることに自分自身が「価値を見つける」ことができていからがんばれることを伝える。 「非認知能力」の基礎的なことを伝え、3つの力の特徴から、ワーク1の出来事がどの力に当たるかを気づくようにする。 	資料1 資料2 資料3
20分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 子どものがんばった、がんばっている姿について考えて書く。また、子どもの「なぜがんばることができたのか」を考える。 グループをつくり、書いたことを共有する。 	◎普段の子どものがんばっている様子から、どんな「非認知能力」が身についているかを参加者が気づき、「どうしてがんばることができたと思うか」を考えることで、どうしたら「非認知能力」が身についていくのかに気づくことをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> 記入したことを参加者同士で共有し、話の中で視野を広げる。 見方を変えると違った力にも結びつくことを伝える。 参加者や周りの大人の、これまでの関わりやすらしさを承認する。 	ワークシート
まとめ 5分～10分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ワークを通じての気づきや感想を「振り返り」に書き込む。 	◎今後子どもとどのように関わっていきたいか等をワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。 <ul style="list-style-type: none"> さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。 	ワークシート 研修のチラシ